

名古屋大学博物館友の会写真サークル

Web写真展（2022年前期）

写真サークルの会員が最近撮影した写真の中から選んだ作品展です。コロナ禍で思うように外出できない日々が続き、顔を合わせての活動もできませんでしたが、写真展開催を目標に掲げ、身近なところでシャッターチャンスを狙いました。個性あふれる作品をどうぞお楽しみください。

名古屋大学博物館友の会 写真サークルとは

名古屋大学博物館友の会の会員のなかで、写真撮影に関心がある人、写真をもっとうまく撮りたい人が集まって、会員相互の意見交換により撮影の腕を磨いています。みなさんも一緒に活動してみませんか？

写真サークルの活動例

- ① 8回/年程度の例会の開催
- ② 1,2回/年程度名大野外観察園などで会員の写真展を開催
- ③ 写真撮影に関する情報交換

友の会入会時に写真サークル入会希望とただし書きしてください。初心者歓迎！
詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/research/tomonokai.html>



輝く湖面で

五十川 修

美しい夕陽に出会えることを期待して、琵琶湖畔に向かいました。雑木林で待つこと、数時間。太陽が顔を出し、湖面に光の帯が現れました。この機を逃すまいとカメラを構えていたところ、なんと警戒心が強く、撮影が容易でないヒシクイが6羽も光の帯に向かって進んでくるではありませんか。こんなシャッターチャンスはめったにありません。光の帯を通過する2羽を主役に捉えることができました。

撮影地：滋賀県長浜市尾上 湖北水鳥公園 撮影日：2021年12月23日



若鳥の飛翔

五十川 修

被写体のクマタカは、**2021年3月**に孵化した若鳥で**8月**に初飛行を確認しました。練習を頑張ったのでしょうか。撮影時には立派に飛べるようになっていました。この地区では、クマタカは毎年繁殖し、留鳥として生息していますが、人の気配で敏感に飛び去るため、なかなか姿を見ることができません。この日は朝から夕刻まで観察を続けましたが、飛翔する姿が見られたのは午前中の**1回**のみでした。

撮影地：滋賀県米原市伊吹町小泉 撮影日：**2021年9月9日**



黄昏時

五十川 修

夕暮れ時のハクチョウを狙って午後から湖畔に向かいました。雑木林で撮影準備をしていると、急に曇り空から太陽が現れ比良山地に沈んだあと、浅瀬がオレンジ色に染まりました。すると、それまで羽の間に首を入れて眠っていたコハクチョウのつがいと思われる2羽が起きだしました。顔を見合わせ、何やら仲良く話しているかのようです。急いでシャッターを切りました。

撮影地：滋賀県長浜市今西 琵琶湖 撮影日：2021年11月9日

静寂の里

五十川 眞知子

能郷白山が雪に覆われた
天気の良い日に、根尾川
に沿って車を走らせまし
た。山が一番よく見える
場所を探してファイン
ダーを覗いてみました。
国の重要無形民俗文化財
に指定された「能郷の
能・狂言」を伝える村里
が静かな佇まいを見せて
いました。前方には、豊
かな水量を保った根尾川
がゆったり流れてきます。
「まるで日本画の世界！！」と感嘆し、この
ままの感動を伝えられたらと、静かにシャッター
を押しました。

撮影地：岐阜県本巣市
根尾

撮影日：2022年1月22日





朝霧湧いて

五十川 眞知子

本日の目的地長浜に向かう途中に、竹中半兵衛の居城があった菩提山の谷間から霧がゆっくり上がっているところに遭遇しました。うっすら雪をかぶった田んぼの向こうに、菩提山を背に暮らす人々の家々があります。あちらこちらから湧き上がってくる霧が冬の小さな山と村に静かな動きを与えていました。

撮影地：岐阜県不破郡垂井町 撮影日：2022年1月3日



冬の訪れ

五十川 眞知子

西池は、日本のため池100選にも選ばれた小谷山南山麓にあるため池です。夏の開花期には池一面がハスの華やかな花色に彩られ、力強い葉や茎の勢い感じられます。秋から初冬にかけては、茎や葉が枯れて折れ曲がっていきます。この日は、薄氷が張った池に種を落としたたくさんの花托と茎が、枯れてなお圧倒的な存在感を見せていました。水面に映った茎と相まって独特のリズムを感じさせてくれます。

撮影地：滋賀県長浜市池奥町 西池 撮影日：2022年1月3日



光輝く極楽鳥

市枝真木子

東山植物園温室に咲くストレリチアの花です。オレンジ色のガクと青色の花びらは色鮮やかで、まるで不死鳥のような姿をしていることから「極楽鳥花（ゴクラクチョウカ）」と呼ばれています。ちょうど陽が射していて緑の葉陰から覗くオレンジ色の冠飾がより美しく映えました。花言葉は「輝かしい未来」で、贈り物にお勧めだと紹介されていました。

撮影日：2021年12月22日



ツワブキ（石路）の綿毛 市枝真木子

東山植物園の椿園を散策しているうちに、ツワブキの濃い緑色の葉っぱと白い綿毛の集まりに目が行きました。初冬には薄暗い草木の陰で、ひと際鮮やかな黄色の花を咲かせるツワブキですが、真冬の白いフワフワの綿毛をちょっと拡大すると、造形が美しいのに驚きました。やがてこの子らは風に吹かれて順番に巣立っていくのでしょうか。花言葉は「困難に負けない」、「謙遜」とありました。

撮影日：2022年1月19日



わらぼっちの中の冬牡丹 市枝真木子

徳川美術館に行ったついでに寄った徳川園では、ちょうど冬牡丹が見頃で幸運でした。多彩な冬牡丹が並び、どれも見事でしたが、私はこのピンクの聖代（せいだい）と呼ばれる冬牡丹にすっかり魅了されました。この薄く繊細な花びらが重なって、ふっくらと開いたピンク色の気品ある花。そして藁囲いから木漏れる日も何だか素敵です。ところで冬牡丹は寒牡丹と違って、春咲き品種を温室を使って冬に咲かせるそうですね。全然知りませんでした！

撮影日：2022年1月27日



場所取り合戦

梅原 誠人

高い松の木のでっぺんは、波打ち際に近く、周辺を広く見渡せるためトビたちのお気に入りの場所のようです。ピーヒョロロと空を滑空しながら場所が空くのをしっかり確認しているのでしょうか。一羽が飛び立つとまた、直ぐに別のトビが舞い降りてきますが、時々、羽根を広げて舞い降りさせないようにするトビもいて、松のでっぺんはまるで場所取り合戦の様でした。

撮影地：蒲郡・竹島海岸 325mm ISO800 1/2000 f/9



梅の香りに包まれて

梅原 誠人

早春の息吹を感じられるようになった梅園ではしだれ梅が凜と咲き、満開を迎えていました。梅には蜜を吸いにメジロたちの群れが訪れ、枝から枝に飛び移る様子を撮影しました。少しの間もじっとしていてくれないメジロ達にピントを合わせるのに苦労しましたが、私もメジロ達と一緒に梅の甘い香りに包まれるの楽しい撮影となりました。

撮影地：名古屋市農業センター 200mm ISO100 1/800 f/2.8

願い

梅原 誠人

紫陽花寺としても知られる本光寺を5月末に訪れました。開花時期には早過ぎて、見どころの山門前の参道も三分咲き程度と青々とした葉が目立ちましたが、境内を散策するとアジサイに寄り添うように佇むお地蔵さまに出会いました。柔らかかで慈悲深い笑顔は皆が平穏無事な日々を過ごせるよう祈っているようで、私も1日も早いコロナ禍の終息を願い、手を合わせました。

撮影地：形原町・本光寺
142mm ISO100 1/250 f/2.8





優美な桂昌院桜

谷口 奈菜子

京都郊外にある善峯寺、細い坂道を上ると山門にたどり着きます。中腹の経堂付近に圧巻の樹齢**300**年以上の桂昌院お手植えのしだれ桜が現れ、優美な姿に見入ってしまいます。見上げるとフレームに収まらないほどの迫力と大きさがあり、少し石段を下りたところからカメラを構えてみました。境内が桜一色に染まり、諸堂を巡りながら京都随一の眺望とうぐいすの声に癒されます。コロナ禍の中、人里離れなんとも心和む場所です。

撮影日：3月27日 38mm ISO110 1/125 f/11



十和田湖の幻想に包まれて 谷口 奈菜子

朝早く起きてホテルから紅葉の樹々を撮ろうと散歩に出してみました。十和田湖の遊覧船の船着き場付近にさしかかると、湖面に朝もやが現れ、ひんやり寒いですが、人の気配もなく、なんとも幻想的で静かな湖畔に魅了されました。対岸の紅葉と棧橋は、これから一日が始まる前のピンと張りつめた東北の哀愁を感じさせてくれます。

撮影日 10月21日 (6:48) 65mm ISO320 1/125 f/5.6



光に包まれ色とりどりの傘 谷口奈菜子

昼間秋の紅葉の京都を満喫し、夕方日が落ちてから夜間拝観の知恩院に行きました。方丈庭園を散策中に、暗い静かな道を歩いていると狸も現れびっくりです。男坂の下には山門裏に和傘がきれいにレイアウトされ、漆黒の闇の中に傘が照明に照らされて、なんときれいなんでしょう！洋傘が主流ですが、舞妓さん、芸子さんのいる京都は和傘がぴったりです。日本らしい情緒ある京都を満喫しました。

撮影日：11月9日（19：35） 4.3mm ISO160 1/30 f/3.5



みいつけた！

塚本 啓互

藤前干潟は春と秋シギ・チドリの渡りの中継地となります。チュウシャクシギは旅鳥でその時によく見られます。干潟が現れると蟹を捕まえて食しています。蟹の食べ方が独特で、まず確保します、そのあと脚・鋏を銜え地面に投げつけその時に脚・鋏が千切れます。それを繰り返して胴だけになった蟹を銜えて飲み込みます。その行動はチュウシャクシギの嘴を見れば納得できそうです。

撮影条件： 600mm ISO1600 1/2000 f/6.3



解き放たれたとき

塚本 啓互

ハマシギは冬鳥でアラスカ北部から渡ってきます。数百から数千羽の群れを作り、干潟が現れるまでは岸辺で佇み、干潟が出ると移動してゴカイや甲殻類、貝類を捕食しています。ハマシギが飛ぶときは一斉に飛び上がり、同じ方向に水面すれすれに飛行し壮観な景色が見られます。

撮影条件： 600mm ISO1600 1/8000 f/6.3



烈風に抗う

塚本 啓互

ササゴイはアメリカ・アジアから夏鳥として飛来します。6月には子育てのため藤前干潟に現れ頻繁に魚を捕獲して、ヒナにエサとして与えます。ササゴイの魚捕獲テクニックは素晴らしく、あっという間に沢山捉えヒナの元に飛んで行きます。ササゴイの飛翔はサギ類なので、羽ばたきはゆっくりで、見応えがあります。

撮影条件： 600mm ISO2000 1/8000 f/6.3



雪化粧した晩秋の御嶽 三矢 保永

新雪の山の写真の撮影地として御嶽を選びました。登山口の“中の湯”の手前（1700m付近）で、林道積雪のため車をデポし、長い林道歩きを強いられました。平地の穏やかな快晴とは打って変わって、樹林帯を抜けた撮影地は冷たい強風が吹きすさび、稜線では激しく雲がわき上がり散っていききました。凍える手を温めながら、なんとかシャッターを押すことができました。左側の薄く雲がかかっている辺りが頂上（3067m）。

撮影地：御嶽女人堂（2470m） 撮影日：2021年11月15日 70mm ISO200 1/125 f/10



田立の滝溪谷 天河滝

三矢保永

昨年（2021年）の盛夏は、天候不順で長雨が続き、さらにコロナ禍の追い打ちで、山屋泣かせの夏山シーズンでした。多雨が好条件になるのは、溪谷美であろうと、木曾の名滝として知られる田立の滝に出かけました。“田立の滝”という名をもつ滝はなく、この溪谷に多数ある滝の総称を言うようです。最大の滝が天河滝（落差40m）。期待どおりに水量が豊富で圧倒されました。強い岸壁の反射光で水流が埋没してしまうので、偏光フィルターを用いて、反射光をカットして、水流が際立つようにしました。

撮影地：田立の滝溪谷

撮影日：2021年8月27日

40mm ISO64 1/20 f/18 偏光
フィルター

田立の滝溪谷 森の世代交代

三矢保永

木曽の田立の滝溪谷へ向かう途中の登山路で撮影しました。木曽の山林には、スギ、ヒノキ、サワラ、モミなどの針葉樹林が手つかずで残されています。しかし、素人ではなかなか区別するのが難しいです。この登山路には、巨木には愛称（例えば、ひのきイチロー）が記された銘板が立てられており、楽しく学ぶことができます。この巨木には太いツタが絡みつき、その前には巨大な倒木が横たわっています。悠久として繰り返される世代交代に、我が歳を重ねてみました。

撮影地：田立の滝溪谷

撮影日：2021年8月27日

24mm ISO3200 1/200 f/4.5



晩秋

森本 一史

折からの突風が一瞬凧いだタイミングと太陽光線に恵まれ、ススキの銀の花穂を切り取ることができました。

撮影地：名城公園

フラワープラザ

撮影日：2021年10月29日

90mm ISO100 1/100 f/13



吸蜜小休止

森本 一史

豊田講堂前の芝生広場横の歩道に沿って、大型プランターが一行に並び、白、紫、ピンクの千日紅が咲き誇っていました。キャンパス広しといえど、近くに花壇はなく、格好の吸蜜ゾーンになっています。冬場は撤去されていますが、夏から秋にかけて今年も再度お目見えするのではないのでしょうか？

撮影地：名古屋大学豊田講堂前 撮影日：2021年10月5日 50mm ISO800 1/2000 f/7.1



皇帝ダリアとアブ

森本 一史

前日の雨のため、かなりの植物が打ちひしがれていましたが、皇帝ダリアだけは凛としていました。

撮影地：名古屋市農業センター宿根草園 撮影日：2021年11月10日 90mm ISO100
1/100 f/7.1



我動じず

吉野奈津子

山の中で出会ったシュレーゲルアオガエルです。きれいな緑色が目を引き、居合わせた3人で撮影会となりました。揃って至近距離での撮影なのにカエルはピクリともしません。堂々とカメラに向かう姿に気迫を感じました。

撮影地：豊田市旭八幡町 撮影日：2020年7月20日



日泰寺五重塔

吉野奈津子

3月下旬に日泰寺へ出かけたところ桜が咲き始めてきれいでしたので、何度か通い五重塔と桜の撮影にチャレンジしました。どの場所から撮影するかも迷いましたが、それ以上に空の青さを目で見ると出すのが私にはできず、今年の課題となりました。

撮影地：覚王山日泰寺

撮影日：2020年4月7日



初夏の花火

吉野奈津子

ネムノキの花です。木によって微妙に花の色合いが違い、この木が野外観察園の中で一番華やかな花を咲かせます。おしべの1本1本にピントが合わせるのが難しく苦労しました。ちなみに花びらは根元の黄緑色の部分で、小さな花が集まっています。
撮影地：名大野外観察園 撮影日：2021年6月17日